

半年の折り返しを過ぎて、10月も終わりに近づきました。見学に来てくれる学生さんもちょっと少な目で、昨日は折角来てくれたのに他の業務に追われてすっかり失念してしまい、良い見学を用意してあげられなかったことを悔やんでおります。昨日の先生方、本当に申し訳なく思います。ごめんね。

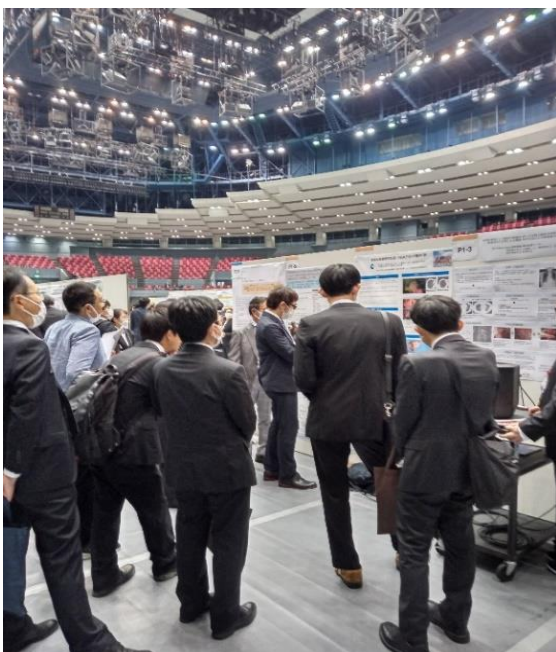
さて、半年の折り返しの10月には、日本最大の病院グループである国立病院機構の病院が集まって開催される国立病院総合学会があります。正確にはありません、ですね。

当院の研修医や専攻医の先生も演題をだして、優秀演題を目指して努力を積んだようです。学術団体の主催ではないこともあり、発表のハードルはそれほど高くないので、発表の経験が少ない先生でも心配することなく参加することができます。

この話題、きっと、前にも書いているに違いないのですが、医師にとって学会発表は避けては通れませんし、臨床医であっても科学者であることが前提です。日々の疑問や分からないことは成書や論文に当たって調べることが重要です。前例がないことは我々のコミュニティではそれを共有して新しい知見とし、不明の事柄は研究計画を立てて深く探求することが大事なことになります。

以前よりも研究に求められるものが多くなり、気軽に始められないことも多くなりました。それはある意味不幸なことですが、真実により近づく代償なのでしょう。でも、ちょっと行き過ぎ、と思わなくも…。

久しぶりに広島に出かけましたが、広島、いろんなお酒がありますね。うふふ。



実は別の病院の先生です。でもスマホに発表原稿はいただけない。聴衆を見て話さない。